



# 愛子遊ぼう！ と森で遊ぼう！ 世界

11

旅行好きのソムリエが、世界のあっちこちから  
死ぬ前に一度は見ておくべき町を厳選してご提案します。  
私があなただの次の旅をもっとわくわくさせますよ！

## シンガポール

シンガポールは不思議な国だ。  
東京23区とほぼ同じ718.3km<sup>2</sup>の小さな面積の中に、華人系、マレー系、インド系、その他いくつかの民族が小国家を形成しており、公用語はなんと4つもある。  
新しいリゾート施設が次々と建設されるアジア有数の観光大国、高額な罰金制度によってポイ捨てや喫煙が厳しく取り締まられる清潔な街、カジノゲームで大枚を叩き、每晚レストランで高級ワインを開ける富裕層が押し寄せるホテル——メディアで取り上げられる浮かれたイメージをよそに、繁華街をほんの少し離れると、胡麻油の香りの漂う雑多な中国街、コーランが響きヒジャブを被った女性が行き交うアラブストリート、郊外へ向かって走るトラックの荷台に乗り込むインド系労働者たち、そういう生活者の日常を当たり前垣間見ることが出来る。住民、移住者、観光客、大富豪に出稼ぎ労働者……、一目では素性の分からない様々な人種の文化や社会階層が交錯しながら、捉えどころのないバランス感

- ① シンガポール随一のリゾートホテル マリーナベイ・サンズ
- ② 毎日開催される噴水ショー
- ③～⑤ 巨大な植物園 ガーデنز・バイ・ザ・ベイ
- ⑥ チャイナタウン
- ⑦・⑧ アラブストリートのサルタン・モスク



14



11



15



12



9



16



13



10

覚で成立している様子は、さながら世界の縮図を見ているよう。ホーカーズ(屋台村)を覗いてみれば、豚肉を避けたハラル食品であるマレー料理しか食べないマレー系の人々、カレーを食べているのはほとんどがインド系の人、中華料理店の前にはやはり中華系の人々が群がっている。何でも食べるのは日本人くらいだ。そうした光景を前にすると、この小さな国で言葉や文化、宗教の違う人間同士がそれぞれの価値観を守りながら身を寄せ合って生活していることに改めて驚かされる。

もちろん、マリナー・ベイ・サンズのスカイパークに上ったり、ラッフルズ・ホテルでシンガポール・スリングのグラスを傾げるのもシンガポールでの楽しみになり得るだろう。

しかしこの国の醍醐味は、ほんの数駅、又はほんの数階移動するだけで、違う文化を持った人間の生活を垣間見られることにあると思う。

9・10 アラブ街のテ・タリ(チャイのような飲み物)のお店。写真を撮ろうかと言われて一人だからいいと断ったら、一緒に写ってくれた親切なお店の人。  
 11・12 ヒンドゥー教のスリ・マリアマン寺院  
 13 インド街にある24時間オープンなスーパーマーケット、ムスタファ・センターはあまりの商品の多さ、陳列の乱雑さに軽いパニックを起こしそうになる。  
 14～16 東南アジア独自のブラナカン文化の残るカトン地区